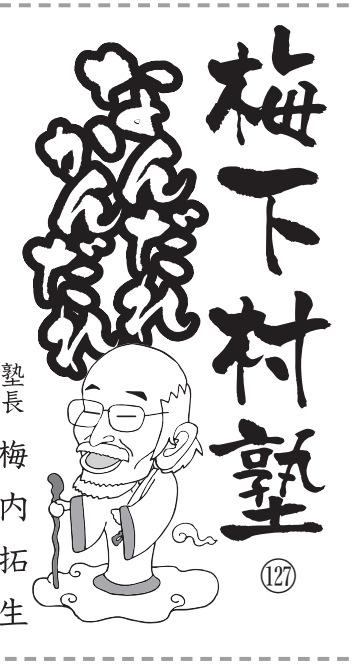
梅下村塾 ⑫⑦



塾長　梅内拓生

「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～

「気仙の魂の奥に眠るもの」～第一中学校文化祭の詠作品から～

前回は経済、政治、文化領域を含む人間の生存活動が既に地球環境の受容能力の限界を超え、地球文明の存続に深刻な状態をきたしていることを述べ、これに対応するために、地球共同体の健康（Planetary Health）という考えが提案されていることに触れた。今日のマスコミ報道にはＴＰＰ、防空識別圏、歴史認識などの言論が飛び交っている。インターネットなどの電子情報媒体技術システムの発達している現代世界では、個人、家族、地域、国家など、いろいろな共同体の自己主張が飛び交っており、混乱と問題を生じている。この問題と困難に対応し、乗り越えるためには第1次の一神教の発明、第2次の科学の発明を越え、第3次形而上学意識革命である魂の革命が必要であることを述べた。第一中学校の詠作品に触れると、気仙の自然と文化を越え、人類の魂に響くものが伝わってくる。

「1年生の作品　秋」

（秋の風と雨）

秋になり　木枯らしが
吹く　夕暮れに　赤く
染まった　空を見つめて

中一男子

秋空に　紅葉の雨が
降りそそぐ

中1女子

ぽかぽかと　秋の日差
しが　まぶしいな

中1女子

台風が　異様に多い
秋の空

中1女子

木枯らし、夕暮れ、赤く染まった空、紅葉の雨、秋の日差し、台風、これらのことばには、縄文蝦夷の長い歴史に響き、宮沢賢治の風の又三郎の世界に通じる世界、カナダのルーシー・モンゴメリの赤毛のアンに響く世界、まさに、人類の魂に響く世界が詠まれております。〝台風が異様に多い　秋の空〟地球文明の存続が深刻な状態に響いて来ます。

「1年生と2年生の作品　一中祭」

（文化の継承）

長縄の　悔しさ晴らし
最優秀　来年見せよう
さらなる飛躍

中2女子

悔しさに　次はと思う
先輩の　歌う姿勢を
心に刻み

家族、地域、学校、いろいろな共同体の文化を引き継ぎ、その奥にある人類共通の魂に触れている世界が伝わってくる。

（東海新報並びに他のマスコミ情報から）

マンデラ大統領の御逝去が世界のマスコミに報道されている。大統領は南アフリカ共和国の大統領を務め、アパルトヘイトを断ちきり、アフリカ原住民とヨーロッパなどから移民してきた人々との話し合いによる国家建設を進めてきた。これは、魂の会話を目指したマンデラ大統領だからこそ可能になったと思う。

「風の又三郎」には縄文蝦夷と大和朝廷の歴史、赤毛のアンの物語にはヨーロッパから移住してきて先住民の支配の上に成り立った歴史、これら歴史をどのようにひもとくかによって物語の捉え方が違ってくる。3・11の東日本大震災は地球規模の地殻変動と生態系への影響、さらには歴史の視点から論じる必要がある。

大船渡第一中学校の文化祭の詠作品にはこれらにつながる魂が詠まれている。12月3日（火）の第3面に「サケ遡上が最盛期　須崎川へ35年間絶えずに帰省大船渡」、第1面の世迷言では障子文化の継承の記事が掲載されている。歴史の継承という世界にはいろいろな姿が浮かんでくる。一中文化祭にはまさに歴史の魂が継承されていると感じられる。